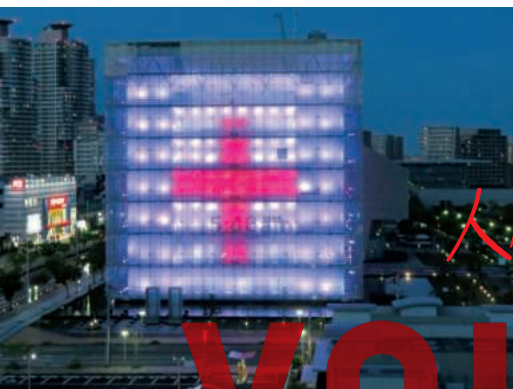


令和2年度

赤十字活動のご報告



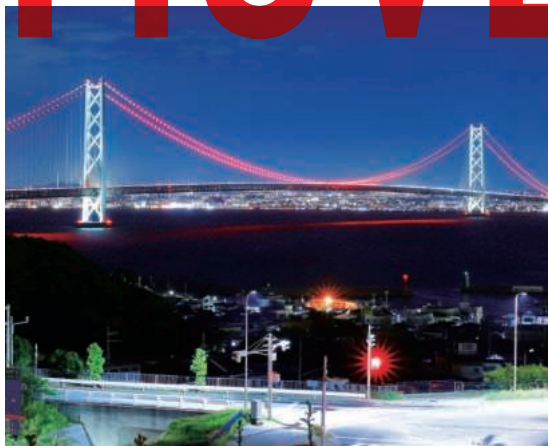
OUR WORLD.



人間を救うのは、人間だ。



YOUR MOVE.



日本赤十字社は、新型コロナウイルス感染症が確認された当初から、このウイルスと戦ってきました。クルーズ船への救護班の派遣に始まり、感染者の治療や療養を医療で支え緊急事態にあっても血液の安定供給を維持するなど、日々職員が奮闘しております。赤十字の活動には、多くの方から暖かい言葉をいただき、また、寄付や献血など様々な形でご支援をいただいております。

わたしたちは、ウィズコロナの時代に的確に対応するため、新たな挑戦を続け、人々が安心して暮らせるよう責任を果たしてまいります。

1 災害救護活動

赤十字は、日本赤十字社法、災害救助法、災害対策基本法などによって、災害発生直後から復興期までの救護活動やこころのケア活動を行う組織として位置付けられています。

また、三木市に整備した「日本赤十字社兵庫県支部災害救護支援センター」において、施設機能を活かして救護員研修などを実施し、更なる災害救護体制の充実と強化に努めています。

① 救護班と救護員の編成及び各種防災・救護訓練の実施

自然災害や大事故が発生し救護班が必要になった場合に直ちに出勤できるよう、県内3カ所の赤十字病院に救護班を編成し、要員登録を行っています。

また、姫路及び神戸赤十字病院では、災害の超急性性期に対応する日本DMAT(災害派遣医療チーム) 隊員に71名を登録し、発災直後に医療救護が行えるよう資機材を含め備えています。

兵庫県支部では、今後、いつ発生するかもしれない大災害に備え、各種防災訓練に参加しました。訓練では新型コロナウイルス感染症に対する感染防護装備を施し、コロナ禍での救護活動も想定して実施しています。

また、コロナ禍における災害救護活動を実施するため、感染防護資材を備蓄しています。



主な救護訓練参加状況	
9月	兵庫県・阪神地域合同防災訓練 第八管区海上保安本部巡視船みうら合同訓練
10月	神戸空港航空機事故対策総合訓練

※新型コロナウイルス感染症蔓延のため、多くの訓練は中止・延期となりました。

救護班数	
姫路赤十字病院	8班
多可赤十字病院	2班
神戸赤十字病院	5班
合計	15班

救護班の編成基準	
医師	1人
看護師	3人
主事	2人
1班合計	6人

救護員研修会	
7月	姫路赤十字病院救護員こころのケア研修
9月	救護員主事研修
10月	救護員基礎・実践研修

日本DMAT隊員登録数	医師	看護師	業務調整員	計
姫路赤十字病院	4人	13人	9人	26人
神戸赤十字病院	11人	7人	27人	45人
合計	15人	20人	36人	71人

感染防護資材備蓄数			
感染防護資材	備蓄数	感染防護資材	備蓄数
サージカルマスク	18,610枚	防護キャップ	600着
高性能マスク(N95マスク)	1,450枚	ニトリル手袋	5,000双
フェイスシールド	740個	プラスチック手袋	2,100双
防護服	600着	非接触体温計	4個
アイソレーションガウン(医療用ガウン)	2,096着		



② 救援物資の備蓄・配付

個人の住宅やマンションが火災や水害等に遭われた際、毛布や緊急セットなどを配付しました。また、不幸にもお亡くなりになられた場合には、ご遺族に災害見舞金を交付しました。



区分	配付数	備蓄在庫数
毛布	171枚	7,080枚
緊急セット	87セット	3,378セット
安眠セット	0セット	811セット
タオルケット	0枚	5,990枚
災害見舞金の交付20件		計440,000円

(令和3年3月末現在)

③ 赤十字防災ボランティア

赤十字の災害救護活動に協力することを目的として、現在、防災ボランティア・リーダー2人、サブリーダー5人、そして個人ボランティア65人が赤十字防災ボランティアとして登録しています。

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた訓練、研修が実施できなかったことから、防災ボランティア・リーダー、サブリーダーがコロナ後を見据えた実践研修会等のテーマを検討するとともに、発災時にいち早く被災地で活動できるよう備蓄倉庫の動線確認等を行いました。



④ 国内災害義援金・海外救援金の受付額

令和2年度に兵庫県支部でお受けした災害義援金、海外救援金は次表のとおりです。

義 援 金	東日本大震災	9,462,467
	平成28年熊本地震	113,706
	平成29年九州北部大雨災害	1,257
	平成30年7月豪雨災害	609,710
	令和元年8月豪雨災害	27,213
	令和元年台風第15号千葉県災害	20,251
	令和元年台風第19号災害	940,190
	令和2年7月豪雨災害	11,745,464
令和3年2月福島県沖地震災害	22,303	

救 援 金	バングラデシュ南部避難民	702,593
	中東人道危機救援金	50,427
	無指定救援金	166,100

義援金・救援金 合計	23,861,681
------------	------------

(令和3年3月末現在)

2 健康と安全を守る講習

赤十字では、誰もが持っている「苦しんでいる人を助けたいという優しい心」、その優しさを行動に移す“自信”と“勇気”を持っていたできるように、AED(自動体外式除細動器)を活用した心肺蘇生をはじめ、救急法や健康生活支援講習などの講習と赤十字防災セミナーを県内各地で開催しました。

また、新型コロナウイルス感染症が流行する中、外出による感染を心配することなく自宅で健康や安全等について学んでいただくことができるように、赤十字オンライン講習を新たに開始しました。

新型コロナウイルス感染症感染防止のため、人と人の接触が避けられない実技を含む講習は中止しました。



救急法オンライン講習



幼児安全法

区 分	基礎・養成講習		短期講習		オンライン講習	
	回数	受講者数	回数	受講者数	回数	受講者数
救 急 法	7	97	46	1,111	18	198
幼 児 安 全 法	感染防止のため中止		37	528	3	8
水 上 安 全 法	感染防止のため中止					
健康生活支援講習	感染防止のため中止		6	97	5	17
防災セミナー			6	241	2	367

(令和3年3月末現在)

3 赤十字奉仕団

赤十字の使命とする人道的な諸活動を身近な社会の中で実践しようとする人々が集って結成されたボランティアの組織です。兵庫県支部では、市町を基盤にした地域奉仕団(44団、39,005人)、専門的な技能をもった人々による特殊奉仕団(9団、530人)、学生を中心に組織された青年奉仕団(2団、158人)が登録されています。



① 地域赤十字奉仕団

① 医療従事者への応援メッセージ

5月、洲本市赤十字奉仕団、西脇市赤十字奉仕団、太子町赤十字奉仕団は、新型コロナウイルス感染症の治療等に従事する医療関係者へ応援メッセージを、姫路市赤十字奉仕団は感染症指定医療機関として地域医療を担っている姫路赤十字病院へ花束を贈りました。

② 地域赤十字奉仕団員研修会

10月、地域赤十字奉仕団員研修会を11ヵ所で開催し、加西市、三田市、新温泉町、姫路市、加東市、香美町、伊丹市、神戸市北区、尼崎市、豊岡市、芦屋市の赤十字奉仕団員205人が、ダンボールトイレの作り方や、Web会議ツールを活用したオンラインミーティングを体験しました。

② 特別赤十字奉仕団(青年赤十字奉仕団と特殊赤十字奉仕団)

各特別赤十字奉仕団では、無線、潜水、写真など各奉仕団が持っている専門的な知識や技術を活かした活動を展開しています。

令和2年度においては、10月19日、障がい者の移動支援や高齢者の見守り活動などを行う「たんよう赤十字奉仕団」が結成されました。

また、神戸青年赤十字奉仕団は、コロナ禍で活動が制限される中、近畿2府4県の青年赤十字奉仕団リーダー養成研修会(Web)に参加し、「SNS等を活用した新たな活動について」をテーマに活動計画を作成しました。



4 青少年赤十字

世界の平和と人類の福祉に貢献できる青少年の育成を目的に、学校教育の場で「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の実践目標を掲げ活動を展開しています。

加盟校数179校 メンバー数61,109人
(令和3年3月末現在)

① 青少年赤十字の研修事業

青少年赤十字オンラインイベント～#JRCメンバーと繋がりたい～

【11月23日:高校生15名、指導者6名】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、参集型の事業が中止となったことから、オンラインを活用したイベントを実施しました。「新型コロナウイルス3つの顔を知ろう!」から3つの“感染症”に対する理解を深め、グループワークを通して知識や考え方を共有するとともに、コロナ禍でも実行できる活動を計画しました。



② 青少年赤十字の国際交流事業

本社青少年赤十字国際交流事業

【11月15日】

例年、海外の青少年赤十字メンバーを招聘し、各支部等での交流プログラムを実施していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、オンラインでの開催となりました。本事業には県内の青少年赤十字加盟校からメンバー8名、指導者2名が参加し、17カ国の海外メンバーと「偏見のない世界をつくる」をテーマにディスカッションを行うとともに、それぞれの文化を紹介するなど相互理解を深めました。



③ 青少年赤十字研究推進校

加盟校における青少年赤十字活動をより充実したものとするため、年度毎に研究推進校を指定し、赤十字の指定するテーマについての研究を委嘱しています。

令和2年度は、小学校2校、高等学校1校の計3校を指定し、その研究成果を各学校からWebツールを活用し、兵庫県青少年赤十字研究会にて報告いただきました。

④ 提供プログラム

兵庫県支部では、加盟校が各学校のカリキュラムの中で青少年赤十字活動を展開できるよう、「健康・安全」「福祉教育」「国際理解・平和」「防災教育」の4つの分野の活動プログラムを提供しており、令和2年度は延べ24回実施いたしました。(令和3年3月末現在)

⑤ その他

休校が続いた学校、児童・生徒の皆さんに「学校生活に潤いと元気を届けたい」と考え、希望された青少年赤十字加盟校27校に「ひまわりの種」を配布しました。

また、青少年赤十字活動が自粛となる中、青少年赤十字メンバーがこれまでの活動や応援メッセージを動画や写真にまとめ、兵庫県支部公式SNS等へ投稿しました。



5 国際活動

世界192の国や地域の赤十字・赤新月社などと連携して、開発途上国赤十字社の事業への協力支援、また民族紛争や自然災害による被災者支援への緊急及び復興支援などの人道的活動を行っています。



① 国際救援・開発協力要員の海外派遣

派遣先	派遣期間	業務内容	派遣者
令和2年1月～新型コロナウイルス感染症禍により、派遣中止			

② インドネシア・コミュニティ防災事業

世界有数の災害多発国であるインドネシアにおいて、地震と津波などの災害から命を守るため、日本赤十字社はインドネシア赤十字社とともに、コミュニティ防災事業に取り組んでおり、兵庫県支部もこの活動を支援しております。

③ 海外たすけあいキャンペーン

紛争や災害で苦しむ人々や感染症など病気で苦しむ人々を支援するため、今年で38回を迎える募金キャンペーンを12月に開催し、県内の各地区・分区や街頭募金などを通じて広く県民の皆さまから、また赤十字奉仕団や日赤有功会等の皆さまから多大なご協力をいただきました。

兵庫県支部の実績額 5,749,991円

6 活動資金

国内外の災害救護活動や各地域で安全安心のため取り組まれる赤十字活動は、活動の意義や理念にご賛同いただいた方々(会員といひます。)からお寄せいただく活動資金と、多くのボランティアの方々の奉仕等によって支えられています。ご協力いただいた活動資金や奉仕活動は、日本赤十字社の組織的基盤であり、活動を推進するうえでの原動力となっています。

① 地区・分区における活動資金のご協力額

各地区・分区(県内各市町)におきまして活動資金へのご協力をお願いし、多くの方々からご協力をいただきました。ご協力いただいた活動資金は、被災者の救援活動や災害への備え、そして地域の安全安心のための活動などに役立てられています。

(円)

地区・分区名	ご協力額	地区・分区名	ご協力額	地区・分区名	ご協力額		
神戸市	東灘区	646,572	相生市	4,458,050	朝来市	4,161,239	
	灘区	3,139,619	豊岡市	9,972,946	淡路市	5,471,855	
	中央区	2,120,928	加古川市	10,774,581	たつの市	9,883,931	
	兵庫区	1,856,743	赤穂市	6,845,900	加東市	3,387,400	
	北区	2,865,290	西脇市	3,066,117	阪神北	猪名川町	1,243,347
	長田区	3,011,569	宝塚市	3,700,000	東播磨	稲美町	3,521,200
	須磨区	3,235,764	三木市	3,347,177		播磨町	3,055,214
	垂水区	3,479,543	高砂市	6,720,916	北播磨	多可町	2,434,650
西区	2,513,996	川西市	5,831,642	中播磨	市川町	1,732,000	
神戸市小計	22,870,024	小野市	4,664,500		福崎町	2,416,201	
姫路市	54,808,498	三田市	3,699,621	西播磨	神河町	2,090,000	
尼崎市	16,838,285	加西市	3,641,430		太子町	3,267,320	
明石市	1,695,304	丹波篠山市	4,773,320	但馬	上郡町	2,604,500	
西宮市	17,417,011	養父市	3,221,056		佐用町	2,612,308	
洲本市	2,562,550	丹波市	7,574,275	新温泉町	香美町	2,591,933	
芦屋市	3,666,416	南あわじ市	4,845,400		新温泉町	2,105,700	
伊丹市	2,617,759	宍粟市	5,357,566	地区・分区合計	267,549,142		
				支部扱い	413,916,637		
				総計	681,465,779		

※新型コロナウイルス感染拡大により、募金活動に大きな影響を受けた地区がありました。

(令和3年3月末現在)

7 医療事業

姫路、多可、神戸の赤十字病院では、いずれも各地域の中核病院として救急医療やへき地医療など安全で安心な医療サービスの提供を行うとともに、日本赤十字社の使命でもある災害救護活動や国際活動を展開できる体制の強化を図りました。

また、新型コロナウイルス感染症の急速な拡大に対し、各病院では通常の診療を継続しながらも、感染症への対策を強化するなど、医療体制の整備を行っています。

姫路赤十字病院

住所:〒670-8540
姫路市下手野1-12-1
電話番号:079-294-2251

標榜科目:

内科、消化器内科、血液・腫瘍内科、肝臓内科、腎臓内科、糖尿病内科、呼吸器内科、循環器内科、小児科、小児外科、外科、乳腺外科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線診断科、放射線治療科、リハビリテーション科、麻酔科、緩和ケア内科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、臨床検査科、化学療法内科

多可赤十字病院

住所:〒679-1114
多可郡多可町中区岸上280
電話番号:0795-32-1223

標榜科目:

内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、婦人科、眼科、泌尿器科、放射線科、リハビリテーション科、皮膚科、精神科、麻酔科、歯科

神戸赤十字病院

住所:〒651-0073
神戸市中央区臨浜海岸通1-3-1
電話番号:078-231-6006

標榜科目:

内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病・代謝内科、心療内科、脳神経内科、外科、消化器外科、乳腺外科、形成外科、整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、泌尿器科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、皮膚科、病理診断科

(人)

令和2年度 業務実績	区分	姫路		多可		神戸	
		延べ患者数	一日平均	延べ患者数	一日平均	延べ患者数	一日平均
	外来患者	312,253	1,290	29,649	123	117,363	485
	入院患者	172,047	471	32,466	89	81,519	223

8 看護師養成

看護専門学校では、一般の看護教育にとどまらず、国内外における災害救護活動においても活躍できる看護師の養成を行いました。

(人)

定員数、在籍者総数						合計
定員数	学年	1年生	2年生	3年生		
各学年40名	令和2年度学生数	43	38	43	124	

(令和3年3月末現在)

(人)

卒業生			
	卒業生数	国家試験合格率	就職率
令和2年度	38人	100%	97%

9 血液事業

血液事業では、全国7カ所にブロック血液センターを置き、献血者や血液製剤の安全対策の充実や血液製剤の安定供給をはじめ、事業の効率化、健全な経営基盤の確立を図っています。

兵庫県赤十字血液センターは、近畿ブロック血液センター内の地域血液センターとして、県内7カ所の献血ルームと移動採血車で、県民の皆様や県内で働く方々に献血いただく「採血業務」と、血液製剤を県内の医療機関にお届けする「供給業務」を担っています。

コロナ禍においても、Web予約の推進を強化するなど、安定的に献血者を確保して、兵庫県内だけでなく近畿管内全体の安定供給に貢献することができました。

また、SNS、オンラインセミナー等を活用し、若年層を中心とした幅広い年齢層を対象に、様々な献血推進活動を展開しました。

- ・ はたちの献血キャンペーン
- ・ 愛の献血助け合い運動
- ・ 全国学生クリスマス献血キャンペーン
- ・ 世界献血者デー
- ・ 献血セミナー (主な取り組み例)

(人)

献血者の受入	
成分献血	66,964
400mL献血	144,974
200mL献血	5,155

(令和3年3月末現在)

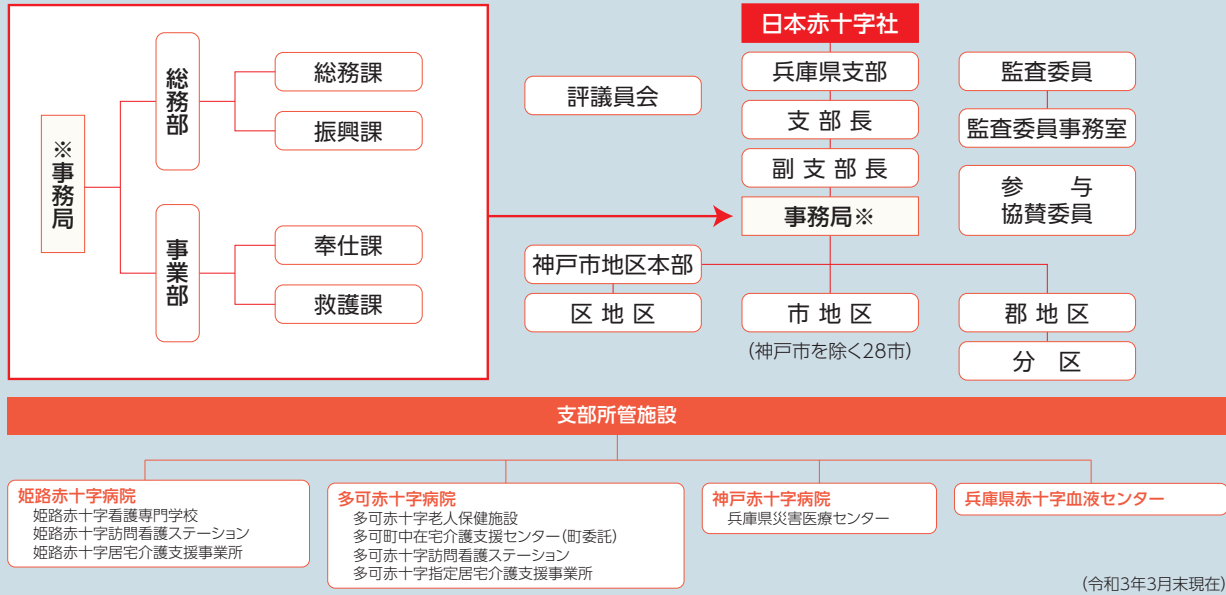
(本)

輸血用血液製剤の供給	
赤血球	120,152
血漿	37,285
血小板	29,530

(令和3年3月末現在)

10 日本赤十字社兵庫県支部の現勢

- 支 部 長:井戸敏三(兵庫県知事)
- 副支部長:藪本訓弘(兵庫県健康福祉部長)、恩田馨(神戸市副市長)、庵谷典章(兵庫県町村会長)
- 監査委員:3名 ■支部参与:3名 ■協賛委員:8名 ■評議員:54名



11 決算報告

令和2年度の各施設等の歳入歳出決算を報告します。

一般会計

個人・法人の皆様からの活動資金等を主な財源に、災害救護、救急法等の講習、青少年赤十字やボランティアの活動など、兵庫県支部の事業にかかる収支をまとめたものです。

科目	決算額	内 訳
歳入		
活動資金収入	681,466	個人及び法人から拠出いただいた活動資金 一般からの活動資金収入 592,841千円 法人からの活動資金収入 88,625千円
委託金等収入	1,029	他団体等委託金収入 (新型コロナウイルス感染症の 関連業務にかかる協力費用)
補助金、交付金	11,726	補助金収入 (兵庫県医療チーム派遣補助金など)、 本社交付金
繰入金	3,735	災害等資金などから繰入
前年度繰越金等	63,417	前年度繰越金、雑収入
歳入合計	761,373	
歳出		
災害救護事業費	46,712	災害救護に要した費用及び救護装備整備費、 救護看護士の養成経費
社会活動費	50,166	救急法等の講習普及事業費、赤十字奉仕団や青少年 赤十字の育成費など
国際活動費	1,736	海外赤十字支援事業費など
指定事業地方振興費	54,959	災害救護設備整備費、採血受入機関係整備費、救急 医療体制整備費など
地区区分区交付金	53,950	地区区分区への事務費及び事業費の交付金
社業振興費	53,341	活動資金募集及び会員管理費、広報活動費
基盤整備交付金	25,137	管内施設への基盤整備交付金
積立金支出	178,499	災害等資金などへの積立金
本社送納金	92,326	本社への送納金
管理費等	133,659	管理事務費、資産管理費など
歳出合計	690,485	
歳入歳出差引額	70,888	

医療施設特別会計

医療施設の運営等にかかる収支をまとめたもので、赤十字病院等医療施設の診療収入を主な財源として、医療施設運営のための費用等に充てられます。

科目	決算額	内 訳
収益的収入		
医業収益	32,874,249	入院及び外来の診療等にかかる収益 入院患者数286,032人 外来患者数459,265人
医業外収益	2,828,556	駐車場や売店等の収益、受取利息等
医療社会事業収益	36,069	医療社会活動にかかる本社繰入金など
付帯事業収益	3,044,862	看護専門学校、老人保健施設等の収益
特別利益	13,164	上記に含まれない過年度収益など
収益的収入合計	38,796,900	
収益的支出		
医業費用	32,182,380	人件費、材料費、委託費など
医業外費用	249,201	支払利息、駐車場の管理費など
医療奉仕費用	477,532	医療社会活動にかかる人件費・経費など
付帯事業費用	2,991,997	看護専門学校、老人保健施設等の運営にかかる 経費など
特別損失	13,523	固定資産にかかる除却損など
法人税等	2,264	税負担など
収益的支出合計	35,916,897	
収支差引額	2,880,003	黒字施設数 3 施設 黒字額 2,880,003 千円 赤字施設数 0 施設

※平成24年度から血液事業特別会計は、日本赤十字社本社にて一元化されたため記載しておりません。

あなたの身近に赤十字

救急医薬品の寄贈・AEDの配備

園児のとっさの手当て等にご活用いただくため、県内の保育所804カ所に救急医薬品を寄贈しました。

また、県内の警察署・交番など警察関連施設にAED(自動体外式除細動器)を配備し、県民の安全安心に役立てていただいております。



あなたの街の災害救援車

県内の各市町での災害救援や赤十字活動を支援するため、災害救援車を配備しています。

令和2年度は、西脇市、神河町に各1台ずつ車両を配備しました。



赤十字ポスターコンクール

県内の小・中・高・特別支援学校を対象に「いのちを守る赤十字の活動」「日本赤十字社兵庫県支部創立130周年」「新型コロナウイルス感染症対応」をテーマに作品を募集したところ、今年度は67校425作品の応募があり、37作品が入賞しました。



赤十字活動をPR

県内で開催されたイベントへの出展などを通じ、いのちを守る日本赤十字社の活動を広く知っていただくとともに、赤十字活動への参加や活動資金への協力を呼びかけました。



開催日	イベント名	開催施設名
5月5日(火)~11日(月)	赤十字レッドライトアッププロジェクト	阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター
5月8日(金)	赤十字レッドライトアッププロジェクト	明石海峡大橋
10月31日(土)	ALL HAT2020 online with コロナ時代の新しい防災訓練	阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター